

6 救急部

基本研修（3ヵ月）

（1）一般目標

生命や機能的予後に関わる疾患や緊急を要する病態や疾病事態に対応できるようになるため、救急医療システムや災害医療システムを理解し、救急患者や緊急事態に対する適切な対応・初期治療能力を身に付ける。

（2）行動目標と実践（OJT）

1）診断力の習得

- ①バイタルサインの把握ができる。
- ②身体所見を迅速かつ的確にとれる。
- ③重症度と緊急度が判断できる。
- ④一次救命処置（BLS）ができ、二次救命処置（ACLS）を理解できる。
- ⑤JATEC（JPTEC）の考え方を理解できる。
- ⑥各種検査の立案・実践・評価ができ、緊急度の高い異常所見を指摘できる。
- ⑦各種基本手技の実践ができる。
- ⑧発熱源精査をすることができる。
- ⑨必要に応じて抗生剤の選択をすることができる。
- ⑩専門医への適切なコンサルテーションができる。
- ⑪災害医療について理解し、述べるができる。また、トリアージができる。
- ⑫患者の社会的背景に留意することができる。
- ⑬チーム医療における自分の役割を理解し、救命救急センタースタッフ（医師・看護師・コメディカル部門）と良好なコミュニケーションをとることができる。

2）治療の実践

- ①救急外来の診療と初療を行った救急部入院患者を受け持ち診療に従事する。
- ②毎朝8時00分～8時30分のカンファレンスに参加し、入院患者のプレゼンテーションを行う。
- ③頻度の高い救急疾患・外傷の初期治療を行う。
- ④中毒・環境起因疾患の治療を行う。
- ⑤心肺停止（CPA）、重症多発外傷など三次救急の症例について適宜行われる症例検討会に参加する。

選択研修（1ヵ月以上）

（1）一般目標

生命や機能的予後に関わる疾患や緊急を要する病態や疾病事態に対応できるようになるため、救急医療システムや災害医療システムを理解し、救急患者や緊急事態に対する適切な対応・初期治療能力を身に付ける。

また、救急外来診療に加え上級医とともに救命救急センター入院患者担当医となり入院診療を行い、的確な診断、治療能力を身に付ける。

（2）行動目標と実践（OJT）

1）診断力の向上

- ①バイタルサインの把握ができる。
- ②身体所見を迅速かつ的確にとれる。
- ③重症度と緊急度が判断できる。

- ④一次救命処置（BLS）ができ、二次救命処置（ACLS）を理解できる。
- ⑤JATEC の考え方を理解できる。
- ⑥各種検査の立案・実践・評価ができ、緊急度の高い異常所見を指摘できる。
- ⑦各種基本手技の実践ができる。
- ⑧重症患者の呼吸・循環管理を適切に行うことができる。
 - ⑧-1) 医療用モニターの測定原理の理解・準備・測定値の評価ができる。
 - ⑧-2) 各種人工呼吸器の保守・点検・設定ができる。
 - ⑧-3) 循環作働薬の特徴・臨床薬理を理解し、適切に使用することができる。
- ⑨発熱源精査をすることができる。
- ⑩必要に応じて抗生剤の選択をすることができる。
- ⑪想定される合併症のリスク判断ができ、予防策を講じることができる。
- ⑫入院患者の栄養管理を適切に行うことができる。
 - ⑫-1) 患者栄養状態の評価ができる。
 - ⑫-2) 栄養投与経路を適切に選択できる。
 - ⑫-3) 必要カロリー数・水分量・栄養素の組成を説明できる。
- ⑬急変時チームリーダーの実践ができる。
- ⑭専門医への適切なコンサルテーションができる。
- ⑮患者の社会的背景に留意することができる。
- ⑯チーム医療における自分の役割を理解し、救命救急センタースタッフ（医師・看護師・コメディカル部門）と良好なコミュニケーションをとることができる。

2) 治療の実践

- ①救急外来の診療と初療を行った救急部入院患者を受け持ち、指導医または上級医の指導のもと診療を行う。
- ②ICUで当直を行い、他科の医師とともに患者の治療方針について検討する。
- ③毎朝 8:00～8:30 のカンファレンスに参加し、入院患者のプレゼンテーションを行う。
- ④エコー検査や IVH カテーテル挿入、CT の読影を行う。
- ⑤頻度の高い救急疾患・外傷の初期治療を行う。
- ⑥中毒・環境起因疾患の治療を行う。
- ⑦心肺停止（CPA）、重症多発外傷など三次救急の症例について適宜症例検討会で自らプレゼンテーションを行い、治療方針、結果について、評価、考察をする。

【標準的週間スケジュール】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	救急外来 ICU	救急外来 ICU	救急外来 ICU	救急外来 ICU	救急外来 ICU
午後	救急外来 ICU	救急外来 ICU	救急外来 ICU	救急外来 ICU	救急外来 ICU

毎朝 8 時からのカンファレンスに参加
 手術室にて随時、麻酔実習（気道確保・気管挿管）を行う
 検視には出来る限り同行
 ドクターカー出動時は出来る限り同乗
 トリアージ訓練でその技術を習得
 災害救護訓練に参加